

令和6年度学校運営連絡協議会 実施報告書

1 組織

- (1) 名 称 東京都立墨田川高等学校 学校運営連絡協議会
- (2) 協議委員の構成 有識者(1)、近隣中学校長(1)、地域有識者(1)、保護者代表(2)、同窓会代表(2) 合計7名
- (3) 内部委員の構成 校長、副校長、経営企画室長、主任教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導担当)、総務部主任 合計7名
- (4) 事務局の構成 事務局長(総務部主任)、他総務部担当者 合計2名

2 実施の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の実施概要
 - 第1回 令和6年5月30日(木) 出席:協議委員6名、内部委員7名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
令和5年度学校経営報告、令和5年度学校運営連絡協議会報告、令和6年度学校経営計画、本校の現状と課題等の概要説明、意見交換
 - 第2回 令和6年10月17日(木) 出席:協議委員7名、内部委員7名
授業公開、これまでの教育活動に関する報告、教育活動に関する意見聴取、学校評価アンケートの内容検討・意見聴取、意見交換
 - 第3回 令和7年2月6日(木) 出席:協議委員7名、内部委員7名
学校評価アンケート結果報告・協議、次年度学校運営に関する提言・方向性の確認
- (2) 評価委員会(第1・2回)の実施概要
 - 第1回 令和6年10月17日(木) 出席:協議委員2名、内部委員2名
令和6年度学校評価アンケートの観点・項目等内容の検討、実施時期の検討
 - 第2回 令和7年2月6日(木) 出席:協議委員2名、内部委員2名
令和5年度学校評価アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書(案)の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施した。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模 (昨年度)
 - 12月 全校生徒 対象:927名 回収:904名 回収率:97.5%(87.3%)
 - 12月 保護者 対象:927名 回収:540名 回収率:55.2%(34.6%)
 - 1月 地域住民 対象:32名 回収:32名 回収率:100%(100%)
 - 12月 教職員 対象:65名 回収:65名 回収率:100%(94.9%)※生徒の回収率が約10ポイント向上し、保護者の回収率が20ポイント以上向上した。
これは、Formsの活用と美汀会の協力に負うところが大きい。
- (3) 主な評価項目
学習指導、探究活動、進路指導、生活指導、学校行事・部活動、教育相談、国際教育、施設・設備、学校広報、ライフ・ワーク・バランスの推進
- (4) 評価結果の概要(学校全般への意見・提言内容)

① 授業に関する項目

授業満足度や進学に向けた授業内容は、生徒、保護者、教職員（以下：三者）ともに、肯定的回答が7割程度であり、少人数・習熟度授業等の進学重視型単位制高校としての特長が生かされているといえる。家庭学習を前提とした「学びのサイクル」の定着に関しては、三者ともに肯定的回答が3～4割かつ減少傾向にあり、課題である。

② 進路指導、探究活動に関する項目

進路情報の適切な提供や面談を中心とした進路指導の満足度は、昨年度より減少傾向で、三者とも7割程度の肯定的回答を得た。一方、探究活動の満足度は、生徒の肯定的回答は2・3年次では5～6割だが1年次では8割を超えた。

③ 生活指導、学校行事・部活動に関する項目

生活指導については、服装や登下校時のマナーなど基本的な指導の徹底については、生徒・保護者は8割前後の肯定的回答があったが、教員は5割であった。生活指導についての理解や納得が得られているかについては、保護者は7割が肯定的であったが、生徒・教員は5割程度であり、十分に理解や納得が得られているとは言い難い結果であった。学校行事と部活動の満足度は、三者とも8～9割が肯定的回答であった。

④ 教育相談、国際教育などに関する項目

教育相談に関しては、三者とも肯定的回答は6～7割であり、教員は昨年度の9割から減じた。国際交流の推進に関する生徒の肯定的回答は、5～7割で2年前の1～2割と比較して大幅に増加した。

⑤ 施設に関する項目

施設・設備などの教育環境の整備の肯定的回答は、三者とも6～7割と、昨年度の3～4割から大幅に増加した。質問内容を自習室や図書館の充実と変更した影響が大きい。

⑥ 学校広報、教職員のワーク・ライフ・バランスに関する項目

学校ホームページの充実についての肯定的回答は、三者とも6～8割で昨年度の4～6割からの増加を維持しているが、生徒募集対策上からも部活動を中心とした情報を積極的に発信していくことが求められている。また、ライフ・ワーク・バランスの取組への理解については、保護者・教員が4～5割であるのに対し、地域が7割と浸透しつつある。教員は2年間で2割増加したが、より一層の取組の推進と情報提供が必要である。

⑤自由意見について

生徒からは校則、施設、授業に関する改善要望が、保護者からはこれに加えて保護者コミュニケーションシステムの活用要望が多かった。今年度トイレの一部改修工事を実施したが、残りの工事は延期が決定している。個別空調設備の設置については、令和8年度の実施が決定している。墨水会（同窓会）による百周年記念事業として図書館、自習室の整備が完了し、始業前と授業後午後6時10分までの自習室も定着してきている。今後も引き続き、生徒の学力向上に向け、学習環境を整えていく。

4 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項(学校経営計画への反映)

(1) 学習指導について

- 少人数・習熟度授業等の進学重視型単位制高校としての特長をより一層生かしていくとともに、授業の予習と復習に自発的学習を加えた「学びのサイクル」の定着など家庭学習時間の充実が必要である。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現や授業におけるICT及び一人1台端末等の適切な活用については各教科で工夫改善がみられ、活用している授業数は増加している。
- 大学入学共通テスト得点率7割以上の生徒が増加したことは成果である。今後は、校内予備校等の活用により、成績上位層への効果的な指導を充実させていくとともに、習熟度別授業の利点を生かし、成績上位層と下位層それぞれに対する指導の充実を図る。

- 図書館リニューアルの効果もあり、早朝や放課後の自習室利用者が各年次生徒毎月延べ400名程度の利用者が定着している。うち約半数以上の生徒が模擬試験の結果の向上が見られ学習習慣の定着が成績向上にも効果があることが実証された。今後、更なる新規利用生徒数の増加に向け啓発を行っていく。
- (2) 進路指導及び「総合的な探究の時間」について
 - 進路指導の情報提供満足度及び進路面談指導満足度は昨年度比僅かに増加したが、教職員の進路情報提供満足度が大きく減少したのは課題である。継続的に適切な情報提供を行っていくことが必要である。
 - 長期休業中、放課後、土曜日等を活用した講習、補習等を積極的に行った。また、都教育委員会による「校内予備校」も受講者数が増加した。特に、実用英語検定取得に向けた講座を3講座開講し、準1級取得を目標とする講座にも1, 2年次生17名が受講したことは大きな成果である。次年度以降も、進路指導部のみならず英語科において英語資格取得が大学入試において大きな効果があることを周知し、受講者数及び上位資格取得者数の増加を図る。
 - 探究推進部を設置して2年目の今年度、探究活動の満足度は昨年並みであったが、内容の向上がみられた。特に、1年次生は、千葉大学との連携による大学訪問や「職業人インタビュー」を実施し満足度が高かった。また、2年次生は、千葉大学等の教授による講演や指導・助言、ティーチングアシスタントの来校による指導を行い、満足度は昨年度比増加した。今後も、進路行事や選択科目説明会等の進路行事との効果的な連携を図り、生徒の学問的興味・関心と進路意識を相乗的に発展させるよう工夫するとともに、その成果を活用した「総合型選抜」受験生徒の指導の充実を図る。
 - 英語4技能伸長は、今年度より海外学校間交流推進校の指定による英検全員受験を継続し、準1級をはじめとする資格取得者数が大幅に増加した。今後は、合格者数の更なる向上に向けて英語科の授業における指導の充実を図るとともに、大学入試における英検資格の活用を奨励し、資格取得意欲を高め合格実績の向上を目指す。
 - 海外学校間交流推進校の指定による、大使館訪問や千葉大学の留学生との交流会、講演会等の国際教育を積極的に展開し、学校評価アンケートでの国際教育への肯定的回答は昨年度比倍増した。また、初めて実施した8月のシンガポール研修に生徒20名が参加し、現地の姉妹校との交流、国立シンガポール大学見学、現地大学生との交流等を実施した。また、帰国後には、七高祭や前期終業式、学校説明会等の機会を活用して研修成果を報告する機会を設け、英語によるプレゼンテーション技能を育成した。次年度以降も継続して国際教育を積極的に推進し、生徒募集にも活用していくとともに、国内プログラムに参加する生徒の定着を図り、英語4技能のさらなる向上を図っていく。
- (3) 生活指導及び学校行事・部活動について
 - 学校行事の満足度は生徒・保護者ともに9割を超えた。次年度も体育祭、七高祭、合唱祭、2年次生修学旅行などの学校行事を生徒が主体的・自主的に取り組めるよう指導していく。
 - 学校生活満足度は、生徒8割、保護者は9割を超えた。自主的・主体的活動に関する肯定的評価も生徒保護者とも8割を超える高い数値であった。今後も、生徒が自主的・自発的な活動が行えているという実感と充実感を得ることにより、生徒の学校生活や行事満足度をより高められるよう生徒指導部と年次担任団が連携して指導を工夫していく。
 - 生活指導についての理解や納得については、生徒が5割程度にとどまったことから、教員が生徒をよく理解し、信じて任せる指導を進めるとともに、生徒指導部が中心となって、教員全体が共通理解を図りながら指導できるように工夫していく。

- 部活動の満足度は、生徒・保護者とも約8割であった。今後は、「部活動に関する総合的なガイドライン」に基づく部活動と学習の両立に向けた指導を行っていく。
- (4) 健康・安全教育と相談体制の充実について
 - 「相談体制の充実」についての肯定的回答は昨年度並みであった。今後は、特別な支援を必要とする生徒への共通理解を図り、生活習慣や人間関係、学習と部活動等との両立を図る指導を継続していく。
- (5) 生徒募集及び学校広報について
 - 学校見学会、学校説明会、自校作成問題対策会等による来校中学生及び保護者等はいずれも減少した。今後は、来校中学生等の個人別来校時期や回数等の調査結果等を分析し、進学重視型単位制高校及び進学指導推進校の特色、探究学習や国際教育、学校行事や部活動の状況等をより効果的に発信し、第一志望生徒の増加を図る。
 - 学校ホームページは、今年度は昨年度大幅に増加した更新回数とアクセス数、「学校公式ホームページが充実している」の肯定的回答は昨年度の水準を維持した。引き続き部活動や学校行事等、本校の特長を効果的に発信するとともに、入学者選抜における自校作成問題に関する情報の充実を図っていく。
- (6) 学校施設及び学校組織運営について
 - 学習環境（学校施設）に関する満足度は昨年度比大幅に増加した。「図書室、自習スペース」の文言を追加したことによるものと推測されるが、図書館自習室の利用定着とともに、墨水会等の支援について生徒に周知されている結果であると考えられる。
 - 今年度トイレ改修の第一期（各階男子トイレ及び体育館棟男女トイレ）工事が終了しリニューアルされた。令和7年度にトイレ改修工事第二期（各階女子トイレ）の予定であったが、教育庁の設計変更のため、令和8年度以降に延期となった。そのため、喫緊の課題である空調設備の更新（個別空調化）を強く要望したところ、令和7年度に設計、令和8年度に空調工事の実施となった。トイレ改修の第二期（各階女子トイレ）工事は、令和9年度に施工の予定である。
 - 夏休の完全消化、学校閉庁日の実施等、教職員のライフ・ワーク・バランス実現に向けた意識は高まりつつあるが、一部の教員の在校時間の長さは課題である。さらに、昨年度増加した教員の働き方改革の取組を知っている保護者が減少したのは課題である。今後も、欠席連絡のメールへの変更や留守番電話機能設定などを周知し理解と協力を得られるよう努めていく。

5 「学校が良くなった」と考える協議委員の人数（協議委員7名）

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
5	2					

6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

協議委員の職員会議への参加はなかったが、墨水会（同窓会）、美汀会（PTA）などの役員が協議委員を兼ねており、年間の交流が増加し率直な意見をいただくことができた。

7 その他

保護者対象アンケートの回収率を更に高めるため、今年度実施した保護者会や美汀会運営委員会の活用に加え、次年度は保護者コミュニケーションシステム等を活用する。

以上